

令和4年6月15日

千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並[発生なし]は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ ネ	いもち病 (葉いもち)	並	6月上旬発生量：並[発生なし] 気象予報：降水量並 日照時間並 気温並か高(-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病を確認次第、薬剤防除する。</li> <li>常発地では、例年6月中下旬が初発時期であるため、予防防除を行う。</li> </ul>
	紋枯病	並	6月上旬発生量：並[発生なし] 気象予報：降水量並 気温並か高(+)	<ul style="list-style-type: none"> <li>粒剤による薬剤防除は出穂20日前ごろに行う。</li> <li>出穂15日前ごろの発病株率が15%以上の場合、粉剤、水和剤で穂ばらみ後期までに薬剤防除する。</li> </ul>
	イネドロオイムシ	並	6月上旬発生量：並 気象予報：降水量並	
	スクミリングガイ(ジャンボタニシ)	やや多	6月上旬発生量：やや多(+) 6月上旬被害株率：並	<ul style="list-style-type: none"> <li>千葉県ホームページに掲載の以下のチラシを参照する。 「STOP! ジャンボタニシ被害」 (<a href="https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/documents/r3_zyantani_tirashi.pdf">https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/documents/r3_zyantani_tirashi.pdf</a>)</li> </ul>
	イネクロカメムシ	並	5月予察灯誘殺数：少(-) 6月上旬発生量：少(-) 気象予報：気温並か高(+)	<ul style="list-style-type: none"> <li>成虫飛来期であり、発生が多い場合には薬剤防除する。</li> </ul>
	ヒメトビウンカ	並	5月予察灯誘殺数：並[発生なし] 6月上旬発生量：並 気象予報：気温並か高(+)	<ul style="list-style-type: none"> <li>縞葉枯病を媒介する。</li> <li>成虫飛来期であり、発生が多い場合には薬剤防除する。</li> </ul>
	セジロウンカ	並	5月予察灯誘殺数：並[発生なし] 6月上旬発生量：並[発生なし] 気象予報：気温並か高(+)	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月上中旬ごろに株当たり10頭以上寄生していた場合は、薬剤防除する。</li> </ul>

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
スイカ	うどんこ病	並	6月上旬発生量：並 気象予報：気温並か高（－） 降水量並 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> <li>トンネルの換気を十分に引き、通風を良くする。</li> <li>病勢が進展してからの防除は困難であるため、発病ごく初期から薬剤防除する。</li> <li>薬剤防除の際は、収穫前使用日数に注意し、葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。</li> <li>令和3年度病害虫発生予報第3号P4「これから注意を要する病害虫」も参照する。</li> </ul>
	アブラムシ類	多	6月上旬発生量：多（＋） 気象予報：気温並か高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬剤散布は、葉裏にも十分かかるよう、丁寧に行う。</li> <li>ほ場により発生状況が大きく異なるため、収穫まで日数のあるほ場では、こまめな観察と早期防除に努める。</li> </ul>
	ハダニ類	やや多	6月上旬発生量：やや多（＋） 気象予報：気温並か高（＋） 降水量並	
サトイモ	アブラムシ類	やや多	6月上旬発生量：並 気象予報：気温並か高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬剤散布は、葉裏にも十分かかるように丁寧に行う。</li> </ul>
	ハダニ類	並	6月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温並か高（＋） 降水量並	
ナシ	黒星病	やや多	5月下旬発生量：やや多（＋） 気象予報：降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害葉、被害果は伝染源となるため、ほ場外に持ち出し適切に処分する。</li> <li>P4「これから注意を要する病害虫」も参照する。</li> </ul>
	シンクイムシ類	やや多	5月下旬発生量：並 [発生なし] 5月フェロモントラップ誘殺数：やや多（＋） 気象予報：気温並か高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> <li>加害が見られる場合は、薬剤防除する。</li> </ul>
	ハマキムシ類	やや多	5月下旬発生量：やや少（－） 5月フェロモントラップ誘殺数：多（＋） 気象予報：気温並か高（＋） 降水量並	
	アブラムシ類	並	5月下旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温並か高（＋） 降水量並	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
温州ミカン	そうか病	並	5月下旬発生量：並 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	・ 発生が多い園では、梅雨期にも薬剤防除する。
	ミカンハダニ	並	5月下旬発生量：並 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	・ 夏期（6～8月）防除の判断は、寄生葉率 30%を目安とする。
ビワ	灰斑病	並	5月下旬発生量：並 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	・ 落葉に付着した病原菌が次の発生源となるため、集めて園外に持ち出し、適切に処分する。
果樹共通	カメムシ類	やや多	5月下旬発生量：やや多（+） 5月予察灯誘殺数：並 5月フェロモントラップ誘殺数：やや多（+） 気象予報：気温並か高（+）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防虫ネット（9mm クロスまたは4mm 以下の網目）等により、物理的な防除対策を行う。</li> <li>・ 寄生が見られる場合は、収穫前使用日数に注意し、薬剤防除する。</li> <li>・ カメムシ類の発生量は、地域間差が大きいため、果樹園への飛来状況は地域や園地により大きく異なる。園内外をこまめに見回り、発生を確認次第、飛来が多い夕方か活動の鈍い早朝に薬剤防除する。</li> </ul>

## II これから注意を要する病害虫

### ナシ黒星病の多発生に注意

5月18日に発表した病害虫発生予報第2号では、ナシ黒星病について予想発生量を「多」とし、「これから注意を要する病害虫」で注意喚起し、防除情報を記載したところである。

5月下旬の巡回調査でも黒星病の発病葉率は2.41%（平年値1.18%）、発病果率は1.82%（平年値0.96%）とやや多い状態が続いている。6月3日付で県担い手支援課が黒星病の今後の防除に関する情報を発表したので、ここに薬剤防除法について転載する。

時期	従来の防除	黒星病多発園での防除 6月いっぱいには散布間隔を約7日に短縮
6月上旬	ベルコートフロアブル(保) (1,500倍液)14日前/5回	・ 上旬：ベルコートフロアブル(保) (1,500倍液)14日前/5回
6月中旬	フロンサイドSC(保) (2,000倍液)30日前/散布1回	・ 中旬①： フロンサイドSC(保) (2,000倍液)30日前/散布1回 ・ 中旬②：追加散布 オーソサイド水和剤80(保) (1,000倍液)3日前/9回 または ベルコートフロアブル(保) (1,500倍液)14日前/5回 または ユニックス顆粒水和剤47(治) (2,000倍液)21日前/3回と ベルコートフロアブル(保) (1,500倍液)14日前/5回 の2剤を混用散布 (5月中旬にユニックス顆粒水和剤47を 散布していない場合に限る)
6月下旬	ストロビードライフロアブル(治) (2,000倍液)前日/3回 オーソサイド水和剤80(保) (1,000倍液)3日前/9回	6月下旬～7月中旬 ・ 左記の「従来の防除」と同様、治療剤に必ず保護殺菌剤を混用して散布する。 ・ 幸水では、満開後75～90日の果実が黒星病に感染しやすい（今年は6/26～7/11） ・ 6月下旬以降の薬剤散布間隔は10日（感染しやすい時期を確実にカバーする）
7月上旬	アンビルフロアブル(治) (1,000倍液)7日前/3回 ベルコートフロアブル(保) (1,500倍液)14日前/5回	
7月中旬	フルーツセイバー(治) (1,500倍液)前日/3回 オーソサイド水和剤80(保) (1,000倍液)3日前/9回 まくぴか(10,000倍液)	

※散布水量は10aあたり250Lを目安に、十分な量を散布する。

※※(保)は保護殺菌剤、(治)は治療剤。

### Ⅲ 参考資料

#### ○ 主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲・サツマイモ・サトイモ・スイカ：6月上旬、果樹：5月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病	葉いもち発病度	0.00	0.01	0.00	
	ばか苗病	発病株率(%)	0.11	0.06	0.06	
	紋枯病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	イネヒメハモグリバエ	被害度	0.59	0.30	0.72	
	イネミズゾウムシ	被害度	9.10	8.03	10.76	
	イネゾウムシ	被害度	1.24	1.93	3.71	
	イネドロオイムシ	被害度	1.89	2.89	0.75	
	スクミリンゴガイ	被害株率(%)	1.26	1.16	2.49	
		1㎡当たり個体数	0.44	0.21	0.22	
		発生ほ場率(%)	12.86	13.17	14.71	
	セジロウンカ	25株当たり寄生成幼虫数	0.00	0.00	0.00	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.00	0.15	0.01	
	フタオビコヤガ	25株当たり寄生成幼虫数	0.01	0.01	0.01	
	セジロウンカ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.00	0.00	0.00	
	ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.35	0.46	0.21	
	ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.00	0.01	0.00	
コバネイナゴ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.03	0.05	0.04		
サツマイモ (印旛、香取)	立枯病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	イモキバガ	被害葉率(%)	0.60	0.34	0.20	
スイカ (山武、印旛)	うどんこ病	発病葉率(%)	0.20	2.90	26.60	
		発病株率(%)	0.40	4.52	40.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	10.80	4.36	10.40	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	6.80	4.04	4.60	
サトイモ (印旛、香取、君津)	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	34.5	33.2	24.7	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	7.6	12.5	19.3	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	2.41	1.18	0.65	
	赤星病	発病葉率(%)	0.03	0.24	0.00	
	シンクイムシ類	被害果率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ハマキムシ類	被害葉率(%)	0.00	0.06	0.03	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	0.09	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.35	4.97	0.00	
	カメムシ類	被害果率(%)	0.00	0.01	0.00	
温州ミカン (安房)	そうか病	発病度	0.08	0.13	0.12	
	かいよう病	発病度	0.00	0.02	0.16	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.02	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	1.00	5.84	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.00	1.50	0.20	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.66	2.00	
	カメムシ類	叩き落とし虫数	0.40	3.24	0.00	
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率(%)	0.75	2.00	0.50	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.10	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.58	0.25	

トラップ月間誘殺数（5月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考 *
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	8.0	32.7	23.7	頭/月
	セジロウンカ	〃	0.0	0.0	0.0	
	トビイロウンカ	〃	0.0	0.0	0.0	
	ヒメトビウンカ	〃	0.0	0.0	0.0	
	フタオビコヤガ	〃	0.0	0.1	0.3	
	イネヨトウ	〃	2.0	7.0	14.3	
	ニカメイガ	〃	2.0	0.9	0.3	
	イネクロカメムシ	〃	6.7	24.3	25.0	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	1.0	1.0	0.3	
	アカスジカスミカメ	〃	1.7	15.9	15.0	
(果樹カメムシ類)	チャバネアオカメムシ	〃	5.0	5.1	0.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	0.3	0.1	0.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	0.0	0.4	0.0	
(コガネムシ類)	アカビロウドコガネ	〃	1.0	2.9	0.0	頭/月
	オオビロウドコガネ	〃	1.0	10.9	5.7	
	ドウガネブイブイ	〃	0.0	0.1	0.0	
	オオクロコガネ	〃	0.0	0.2	0.3	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	3.0	1.2	1.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	1.0	1.1	0.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	14.0	19.0	0.0	
	カメムシ類	〃	18.0	21.3	1.0	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	0.2	0.5	0.2	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.5	0.1	0.3	
	コナガ	海匝	4.7	6.3	11.2	
	ハスモンヨトウ	県内全域	1.1	2.0	5.6	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	0.1	0.1	0.4	
	オオタバコガ	県内全域	0.7	0.9	0.6	
	タバコガ	県内全域	0.1	0.2	0.3	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	0.8	0.5	0.7	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	0.8	0.5	0.7	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	2.0	0.6	1.0	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	1.9	1.5	1.3	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	3.9	2.2	2.3	
	チャバネアオカメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	6.6	5.4	
ツヤアオカメムシ		〃	0.5	0.6	0.0	
クサギカメムシ		〃	0.3	0.4	0.0	
カメムシ類		〃	7.5	6.4	0.7	
マルボシヒラタヤドリバエ（天敵）		〃	0.5	0.9	0.1	

\* 種類別の単位の違いに注意

## ○気象予報

6月9日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

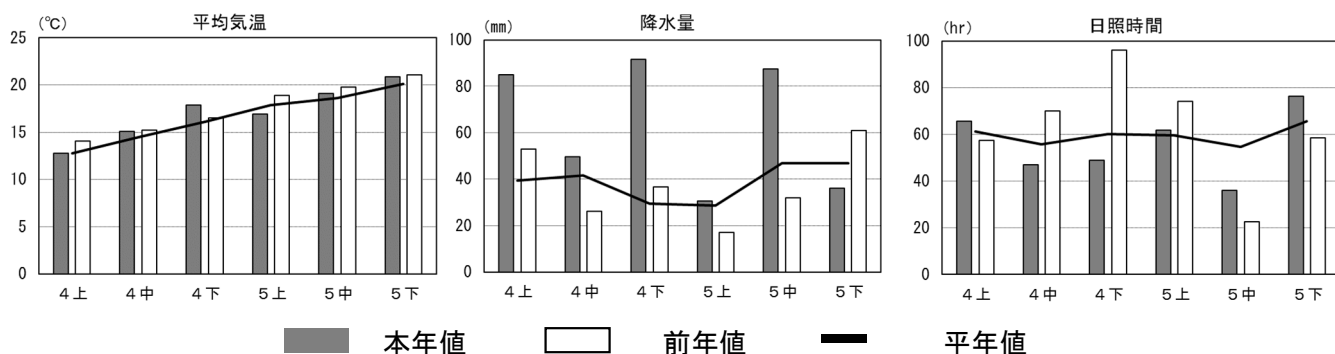
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	30	40

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(6月11日～7月10日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	23.2	21.2	22.8
降水量(mm)	166.3	176.5	229.7
日照時間(hr)	122.7	133.2	130.0



## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は7月20日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
<https://pesticide.maff.go.jp/>



問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp